

要点記録

会議の名称	市民参加推進会議ワーキンググループ（第1回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成24年7月6日（金）午後6時00分～午後8時7分		
開催場所	前原暫定集会施設1階 A会議室		
出席者	委員長	坪郷 實	委員
	副委員長	浅野 智彦	委員
	委員	遠藤 圭司	委員
		杉本 早苗	委員
		福井 高雄	委員
		高橋 雅栄	委員
		河野 律子	委員
		白井 亨	委員
		馬場 彬暢	委員
		五島 宏	委員
		天野 建司	委員
欠席者	山下 光太郎 委員		
事務局	企画政策課長	高橋 啓之	
	企画政策課長補佐	竹田 怜史	
	企画政策課主任	工藤 真矢	
	企画政策課主事	津田 理恵	
傍聴の可否	○ 一部不可 不可		
傍聴者数	1人		
【会議次第】	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 第4期推進会議の論点整理について 3 次回推進会議の開催日について 4 閉会 		
【会議結果】	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 第4期推進会議の論点整理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 議論の進め方について議論を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの委員からの提案について、テーマを絞って提言に向けて議論を詰めていく作業とそれ以外の今まで会議で出た意見等については、今後の参考になるように整理する。 ・参加の形は、市政直接参加型（審議会等）と生活密着型（イベントや自治会等）と大きく2つに分けることができる。生活密着型はある程度参加の実績があるため、市政直接参加型についてまず議論を進めていく。 (2) 審議会傍聴環境の整備に関して以下の点について議論を行った。 		

- 提案シートを各審議会に常設することを規定等で明記するか。
- 各審議会に参加の手法の一例として例示し、取り入れるかは審議会の中で決定するか。
- 意見提案シートで出された意見を会議の中で必ず取り上げるかとするか。
- 取扱いは各審議会にまかせるか。

(主な意見)

- ・提案シートの取扱い方を決めておかないと、議題にされないでただ出すだけで終わってしまう。
- ・規定に明記しないといつかは無くなってしまう恐れがある。
- ・提出された意見を必ず反映するとまでは言い過ぎかもしれないが、必ず議題として取り上げることは必要。
- ・提案シートは常設し、さらにその提案を取り上げる時間を会議の中で設けるようにすれば、意見を出す方のモチベーションもあがるのではないか。
- ・意見を取り上げるかどうかは各審議会の中で決めるが、委員全員に提案シートが配付されることが大事。
- ・委員も傍聴者の意見を知りたいということがあるので、提案シートは傍聴者全員に配布した方がいい。
- ・随時意見を聞くのも大事だが、意見を聞くタイミングが重要ではないか。
- ・市民参加のスタンダードとして審議会の進め方を紹介し、各審議会がどの参加手法を取り入れていくのか、委員自身が自主的に考えていく、事務局も参加して考えることが多様な市民参加を進める上で重要ではないか。
- ・会議に来られなかった人も意見が言える制度にしたい。
- ・意見を聞く仕組み、いろいろな手段があることを審議会の冒頭で紹介し、それについてどうするか各審議会は必ず決定するように審議会に周知する。
- ・実行性がある方法で提言をあげていくことが重要

3 次回会議の開催について

- ・平成24年8月21日午後6時00分～（ワーキンググループ第2回として行う。）
- ・資料1の7(2)公募委員の募集についての論点を進める。

4 閉会

【提出資料】

- 1 第4期推進会議の論点整理【資料1】

第4期推進会議の論点整理

1 現状把握

(1) 浅野委員報告「誰が参加するのか？」

- ・ 市政直接参加…高年齢・男性・地域に知人が多い
- ・ 生活密着参加…男女問わず、高年齢・専業主婦・子供のいる世帯・地域に知人が多い。

⇒地域の知人の多さが参加を促す要因になるのでは！

2 市民参加の手法の検討

- (1) 無作為抽出の市民討議会や市民会議
- (2) 公募委員について20代、30代の一定の割合を設けるなど枠組みを増やす。
- (3) ツイッター、フェイスブックなどの活用
- (4) 条例で市民参加を義務づける。
- (5) ワカモノ市民参加大使など身近なロールモデルをつくる。
- (6) 飲食店での審議会等のライブ中継
- (7) 参加型職員研修
- (8) 市民と協働を実践するような職場を経験する。
- (9) 無作為抽出の公募市民登録制度（例：三鷹市）
- (10) 市民が参加しやすい一元化されたフォーマットの整備（公募委員の募集等）

3 審議会等の運営

- (1) 公募委員の選出の際の基準や説明を明確にすること。
- (2) 公募委員の選考のプロセスが結果も含めて公開される仕組み
- (3) 公募選考論文審査において最終は抽選を取り入れる
- (4) 審議会開催告知の議題のわかりやすさ
- (5) 曜日と開催時間の工夫
- (6) 傍聴者の資料は閲覧ではなく配付にすること。
- (7) 意見・提案シートの仕組みの検討
- (8) 過去の議事録を傍聴者用にファイリングする。
- (9) 傍聴者に来た方が発言をする時間を設ける。
- (10) ユーストリーム中継や傍聴席での実況中継などで審議会を身近なものに。
- (11) ツイッター、フェイスブック、録音、録画、動画の中継・発信の規定の整備
- (12) 審議会ごとに傍聴者数目標設定をする。
- (13) 審議会等では会議の場以外でのコミュニケーションをとることを促す。

4 青年の市民参加

- (1) 地元志向が高い。ただ友人が地元にいるからという理由である。
- (2) インターネットの活用・ゲーム感覚のおもしろさ・街コンなど
- (3) NPO、小中学校、大学等中間団体との連携

5 女性の参加

- (1) 女性の協力関係を持てるような団体。活動状況を聞いてみる。
- (2) 保育・手話通訳士が必要な方への配慮
- (3) 子育て中のお母さんへの働きかけ

6 資料

●例年提出しているもの

- (1) 市民参加条例対象附属機関一覧表（附属機関等の全委員定数、公募委員定数、男女別、年代別委員数等）
- (2) 公募委員状況一覧（前年度の公募委員の募集、応募、採用状況の一覧）
- (3) パブリックコメント実施状況（前年度に実施したパブリックコメントの状況）

●個別に提出したもの

- (1) 公募市民の参加状況について（多摩 26 市）
- (2) 市民参加条例対象附属機関等の調べ（開催時間、保育士及び手話通訳士、傍聴環境等）
- (3) 市民参加推進会議提言についてのまとめ（1 期から 3 期）
- (4) 近隣 7 市の審議会の保育士・手話通訳士設置状況調査

7 さらに論点整理のために（一部の例示です）

- (1) 「審議会傍聴環境の整備に関して」

現状

審議会傍聴における「意見・提案シート」の導入例

（平成 24 年 3 月 30 日現在 導入のきっかけ、導入時期、実績、取り扱い）

男女平等推進審議会	事務局提案
行財政改革市民会議	委員提案
児童館運営審議会	会長の提案
新庁舎建設基本計画市民検討委員会	事務局提案
東小金井駅北口まちづくり事業用地整備活用計画策定委員会	事務局提案

(平成 24 年 4 月 導入)

市民参加推進会議

委員提案

審議会の傍聴者への配付資料は、配付の場合と閲覧の場合がある。

提案

- ① 「全ての審議会に『意見・提案シート』を常設し、傍聴者・市民の誰もがいつでも提出できるように環境整備を進める」
- ② 「各審議会における資料の取り扱いに関して、傍聴者の審議内容の理解に資するよう、閲覧のみではなく、配布する運用に向けて統一的な対応を進める」

意見(問題点)

「各審議会によって市民の傍聴環境が左右されてしまうのは好ましくないので、統一的対応をした方がよい」

「テーマによっては利害関係や市議会の対立問題に巻き込まれる又は委員同士が対立することも懸念される」

「提案シートの意見が市民の一般的意見とは大きくずれる可能性がある」

「論争的な問題を扱う場合には、提案シートを利用して意見を通すといったことも考えられる」

意見(運用・実施方法)

「各審議会に導入するための統一的規定を作る」

「各審議会発足時に、『意見・提案シート』の運用例を示して、導入を決める」

(2) 公募委員の募集について

「公募委員の登録制度」の導入

無作為抽出による「公募市民登録制度」(例 三鷹市)の導入について

(3) 公募委員の選考基準と選考について

選考基準の明示

選考プロセスの透明性

(4) 子ども家庭の世代の参加 障がいのある方の参加のための環境整備について

保育士、手話通訳士の設置

開催時間や曜日の工夫

(5) 青年の市民参加について

(6) 参加型職員研修

(7) 「自治体基本条例と市民参加」に関する調査と資料の収集

8 委員からの提案一覧

「第4期市民参加推進会議の議題について(委員による提案シート)」

「若者の地域社会への参加について」

「『どのようにすれば、若者の市政参加を増やせるか』を検討するためのヒント」

「参加型職員研修の定例化」

「審議会傍聴環境の整備・向上について」

「誰が参加するのか?——市民意向調査データの再分析」

「組織から考える若者の市民参加」

「公募委員を公正に選考し、選考基準を公表する」

「委員会での合意形成、意思決定過程について」

「附属機関などの委員公募の一覧」

「『公募委員の登録制度』の導入」

「市民参加による自主防災活動」

「子ども家庭等マイノリティの参加しやすい環境を整備する」